

- 「科学技術イノベーション創造推進費」(令和2年度:555億円)のうち175億円を医療分野の研究開発関連の調整費として確保。
- 調整費の配分に係る考え方としては、現場の状況・ニーズに対応するため、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)より提案される「理事長裁量型経費」及び推進本部長又は副本部長等が配分対象事業及び配分額案を策定し、機動的な予算配分を目的とする「トップダウン型経費」がある。
- 健康・医療戦略推進本部の決定により、基本的に、毎年度2回配分(春と秋)。

科学技術イノベーション創造推進費 (平成26年度～、内閣府に計上)

555億円

175億円
(AMED) 医療分野

100億円
(PRISM)

280億円
(SIP)

右記の配分方針に基づき、健康・医療戦略推進本部の決定により配分。

高い民間研究開発投資誘発効果が見込まれる領域における研究開発をCSTIガイニシアティブを取って推進するため、各府省における取組の加速等に取り組む。

府省・分野の枠を超えて、基礎研究から出口(実用化・事業化)までの研究開発を一気通貫で推進し、府省連携による分野横断的な研究開発に産学官連携で取り組む。

医療分野の研究開発関連の調整費に関する配分方針 (平成26年6月10日健康・医療戦略推進本部決定)

① 現場の状況・ニーズに対応した予算配分 (理事長裁量型経費)

AMED理事長より提案を受け、理事長と調整の上で配分対象事業及び配分額等の案を策定し、推進本部に諮るもの。

- ・ 年度の途中で研究開発が加速する等の理由により、追加的に研究開発費を配分することが、研究開発の前倒しや研究開発内容の充実等に効果的と判断した事業について配分。
- ・ 健康・医療戦略等の取組を一層推進する観点から、特に優れた課題の採択数の増加や新たな研究課題の公募等が望ましいと判断した事業について配分。

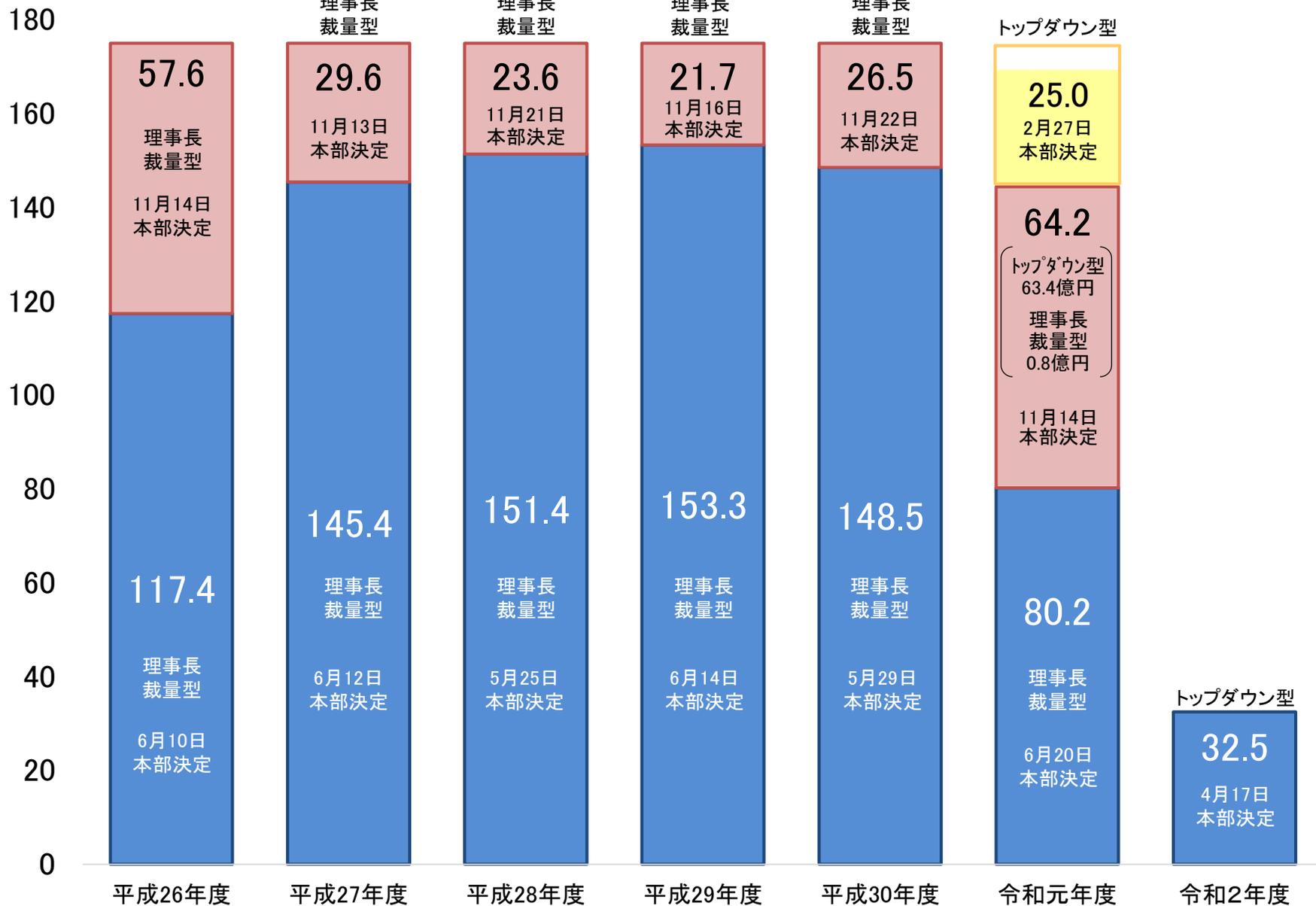
② 推進本部による機動的な予算配分 (トップダウン型経費)

推進本部長又は副本部長等が配分対象事業及び配分額案を策定し、推進本部に諮るもの。

- ・ ある領域において画期的な成果が発見されたこと等により、当該領域へ研究開発費を充当することが医療分野の研究開発の促進に大きな効果が見込まれる場合等に配分。
- ・ 感染症の流行等の突発事由により、可及的速やかに研究開発に着手する必要が生じた場合に配分。

平成26年度以降の調整費配分実績推移

(億円)



■ 令和2年度第1回の医療分野における研究開発関連の調整費については、「医療分野の研究開発関連の調整費に関する配分方針」（平成26年6月10日健康・医療戦略推進本部決定）に基づき、総額で32.5億円を配分。
今般の新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大を受け、治療薬・ワクチンや医療機器等の開発が喫緊の課題となっていることを踏まえ、トップダウン型経費配分を行うことにより、新型コロナウイルス感染症に関する研究開発を更に加速・拡充する。

1. 治療薬開発研究の加速・拡充 2億円

調整費等で開始した既存治療薬における臨床研究実施機関の追加、併用薬剤評価に対応することで既存治療薬の開発研究を加速・拡充。

■ アビガン臨床研究の対象施設追加

令和元年度第3回調整費で開始した治療薬研究開発課題について参加医療機関を30施設程度追加。

■ オルベスコおよびアビガン観察研究の実施

観察研究に必要なオルベスコ購入経費の拡充および、迅速に結果を得るため、CRO委託費用やデータマネジメント経費を拡充。

■ 併用薬剤の評価

既存治療薬を複数併用した際の抗ウイルス作用を、in vitro評価など前臨床試験により検討。

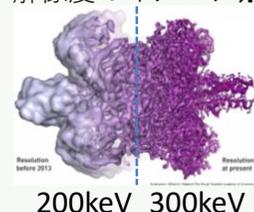
2. 創薬標的探索機能の強化・拡充 16.5億円

喫緊の課題である新型コロナウイルス感染症に対する治療薬開発に向けた抗感染薬の標的因子の探索機能を強化・拡充するため、調整費を活用し、世界でも希なBSL3施設ヘクライオ電子顕微鏡を整備。

■ BSL3施設への300keVクライオ電子顕微鏡の整備

300keVのハイエンドクライオ電子顕微鏡をBSL3施設に整備し、ウイルスの構成タンパク質のより詳細な構造解析を可能にすることにより、抗感染薬の標的因子の探索機能を強化・拡充。

解像度のイメージ※



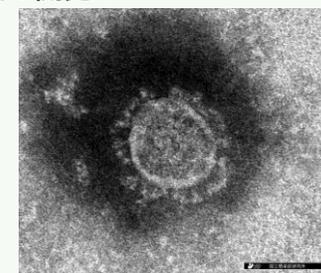
※300keVと200keVの比較イメージを図示するために、それに類するとされる2013年（左）と現在（右）の解像度の違いを比較したものであり、直接的に現在の200keVと300keVの性能の違いを表すものではない。

3. 新たな作用機序等による治療薬開発研究 10億円

既存の創薬基盤等を活用し早期に実用化が期待される新規治療薬について、公募により広く候補薬を募り、臨床試験（第1相試験）までの開発研究を推進。

■ 新型コロナウイルス感染症に対する新薬の開発

例えば、新規の感染阻害活性、増殖阻害活性、感染細胞に対する細胞障害活性等、既存治療薬とは異なる作用機序等に注目した新薬の候補について広く提案を受け、その中で、特に効果を期待できる薬剤の開発を推進。



4. 国内外の検体の確保・解析等 4億円

国内外の血液サンプル等の検体を集積・解析すること等により、予防法・診断法・治療薬の開発を加速。

■ ワクチン等開発研究のための感染者由来等血液サンプルなど免疫応答等に関する解析

回復者を含む感染者等からの血液サンプルの集積、免疫応答の詳細等についての解析を行い、重症化バイオマーカーの特定や免疫能の持続性などの詳細情報を収集。

■ 海外研究拠点で得られる検体・情報等を活用した研究の推進

海外研究拠点で得られる検体・情報等を活用し、多様な分野と連携する研究や、地域横断的な研究等を推進。

